

歩行者の早期発見 それが事故防止の 第一歩

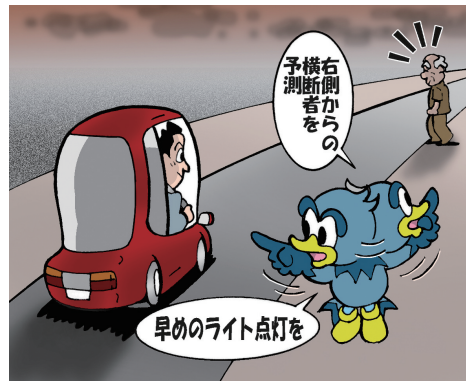
①薄暮・夜間の対歩行者事故防止をすすめよう

- 右側から横断してくる歩行者との事故を防止しよう
- 夜間の減速を徹底させよう

②急ぎの心理による事故を予防しよう

- 急ぎの心理への対策をアドバイスしよう

※「カチッと100!」シートベルト・チャイルドシート着用徹底強化旬間
11月11日(火)～11月20日(木)



右側から横断してくる

歩行者との

事故を防止しよう

「秋の日はつるべ落し」という言葉があるように、これらの時期は急速に日が暮れることから、視界の悪化を招き歩行者等を見落とす危険が高くなります。そこで、対歩行者事故防止に力を入れましょう。

県内では信号のない場所を横断中に車にはなられ死亡した事故が一〇七件発生しています(令和二一六年・愛知県警)。そのうち夜間、右から横断してきた歩行者との事故は六十二件と約六割を占めています。

右から横断してくる歩行者は「車がまだ遠くにいるから横断できる」と考えて無理に横断してくることがあります。

夜間運転する際は、右から道路を横断してくる歩行者に十分注意するとともに、危険の早

期発見のため、日没三十分前のライト点灯を指導しましょう。

夜間の減速を指導しよう

夜間事故の多くが、危険の発見が遅れたことに起因しています。

夜間は、仕事が終わったことで緊張感から解放されるとともに、「早く家(職場)に帰りたい」といった理由からスピード超過に陥りがちです。また、交通量が少なく周囲も暗くて見えにくいため、スピード感覚が鈍ることも、スピードを出しやすくする要因のひとつです。

スピードが上がるにしろ、視野は狭くなり危険を認識することが難しくなるため、危険の見落としや発見の遅れにつながります。

夜間はスピードを抑えて運転することを徹底するように指導しましょう。

感覚でスピードを正確に把

握するのは難しいので、スピードメーターをチェックすることを習慣づけさせてください。

急ぎの心理への対策を
アドバイスしよう

時間に余裕がなくなると「急ぎの心理」に陥りやすくなり、スピードの出しすぎや車間距離を詰めた運転、急な車線変更、一時不停止、信号無視などの事故につながる危険な運転を行います。

急ぎの心理に陥らないよう、余裕を持ったスケジュールを立てることや十分早めの出発の励行を指導しましょう。

また、「急ぎの心理」を自覚したときは「今、自分は焦っているな」「ちょっと無理しているな」など、自分の運転を客観視して、危険な行動から脱することを心掛けるようにアドバイスしておきましょう。